

Ⅱ パネルディスカッション

「インクルーシブ社会に向けた支援の
〈学=実〉連環型研究を展望する」

パネルディスカッション
「インクルーシブ社会に向けた支援の〈学=実〉
連環型研究を展望する」の趣旨



稲葉 光行
(政策科学部教授)

それでは時間になりましたので第3部パネルディスカッション『インクルーシブ社会に向けた支援の〈学=実〉連環型研究を展望する』を始めたいと思います。司会は私、立命館大学政策科学部・稲葉が務めさせていただきます。第2部のソイダン先生の基調講演は、どちらかという人間科学研究所の対人支援研究活動の一環として発表していただいた側面が大きいかと思いますが、第3部のこのセッションは、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「インクルーシブ社会に向けた支援の〈学=実〉連環型研究」というプロジェクトのキックオフシンポジウムという位置づけになっています。登壇していただく先生方は、インクルーシブ社会に向けた支援の〈学=実〉連環型研究のプロジェクトリーダーの先生方にプロジェクトの展望をお話いただくということになっています。どうぞよろしくお願ひします。

それではパネルディスカッションを始めるにあたって、パネルの概要、およびプロジェクトの概要を私の方から説明させていただきます。その後5名のプロジェクトリーダーの先生方から、これまでやってきたことと今後考えておられることについてご紹介させていただきます。その後、発表の後に会場から質問をいただこうと考えておりますので、積極的に参加をしていただきたいと思います。そして、最後にソイダン先生にコメントをいただくという流れになっています。それでは、パネルの概要とプロジェクトの概要を説明させていただきます。

「インクルーシブ社会」とは？

What is *Inclusive Society* ?

CiNii検索

タイトル：
インクルーシブ社会

*Title Search
of "Inclusive Society"
in CiNii database*

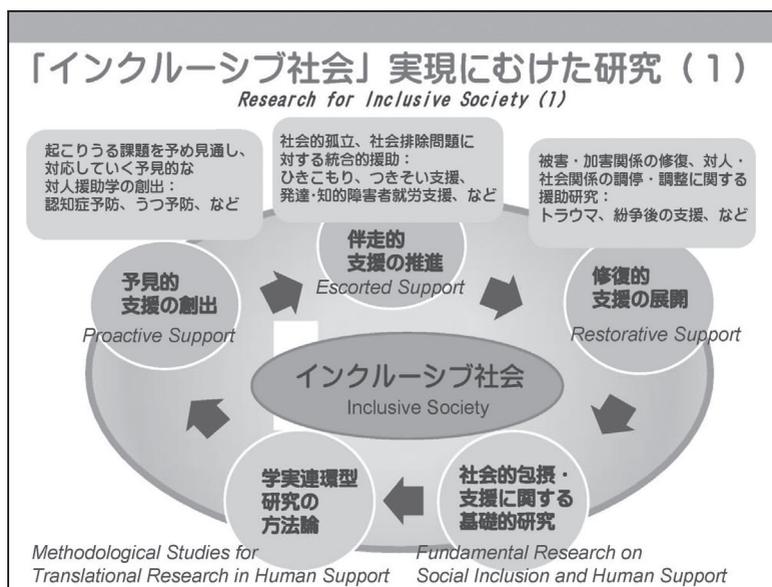


- ・ 障害者差別 (Handicapism)
- ・ 障害者権利条約 (Rights of Persons with Disabilities)
- ・ 重い障害のある人の地域生活支援 (Welfare service for persons with disabilities and consultation support)
- ・ 外国人の受け入れ (admittance of foreigners)

このパネルディスカッションは、『インクルーシブ社会に向けた支援の〈学＝実〉連環型研究を展望する』というタイトルです。司会は、私、稲葉が務めさせていただきます。他の先生方はそれぞれの発表の時にお名前をご紹介します。

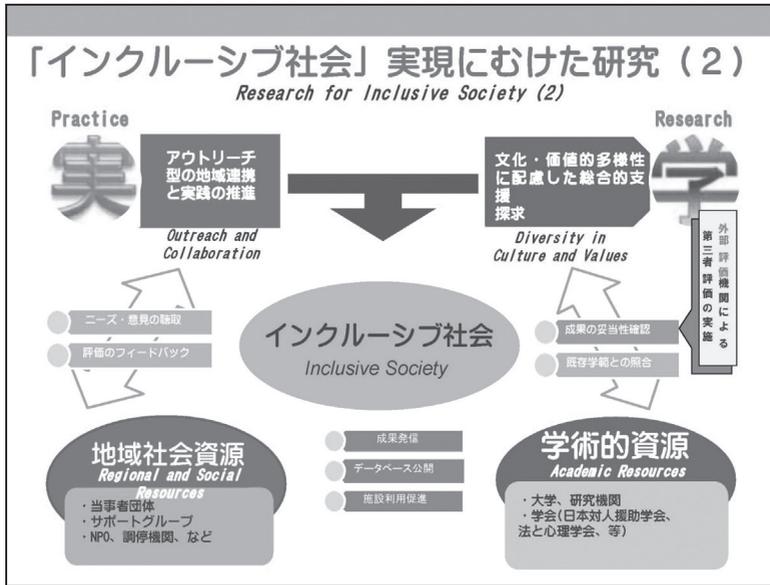
この「インクルーシブ社会に向けた支援の〈学＝実〉連環型研究」というプロジェクトの名前ですが、これはここにおられるプロジェクトリーダーの先生方、各研究所、いろいろな研究プロジェクトをされている先生方が集まって話して決めた、そういうキーワードです。実は私自身の専門は情報科学です。他に福祉、心理、社会学の先生方が集まって、共通に取り組める課題は何か、そういうキーワードは何かということで議論して出てきたキーワードがインクルーシブ社会です。これが出てきた時点で、これはいいキーワードだ、これに向けて皆で取り組もうということでプロジェクトを始めたんですが、実はこのインクルーシブ社会というキーワードをCiNiiというデータベースで調べますと、あまり出て来ません。インクルーシブ社会というキーワードをタイトルに含む論文は4件しか出て来ません。そして、そのほとんどが障害者に関する問題を扱うものです。インクルーシブ社会というキーワードをタイトルだけでなく本文の中で含むものを検索すると、12件ヒットし、そのほとんどが障害者

問題に関わるものです。それ以外に社会的包摂、ソーシャルインクルージョンというキーワードを入れますと189件ぐらいの論文が出てくるんですが、やはりメインは障害者に関する問題を扱うものです。我々のところでは、障害者の問題も含めて課題をもっと広く捉えるべきであろうという議論をしました。我々なりにインクルーシブ社会という言葉、あるいはインクルーシブ社会に向けた研究というのを定義しなおし、我々なりのビジョンを作り出すということをやりました、その中で出てきたのが次の3つの柱です。

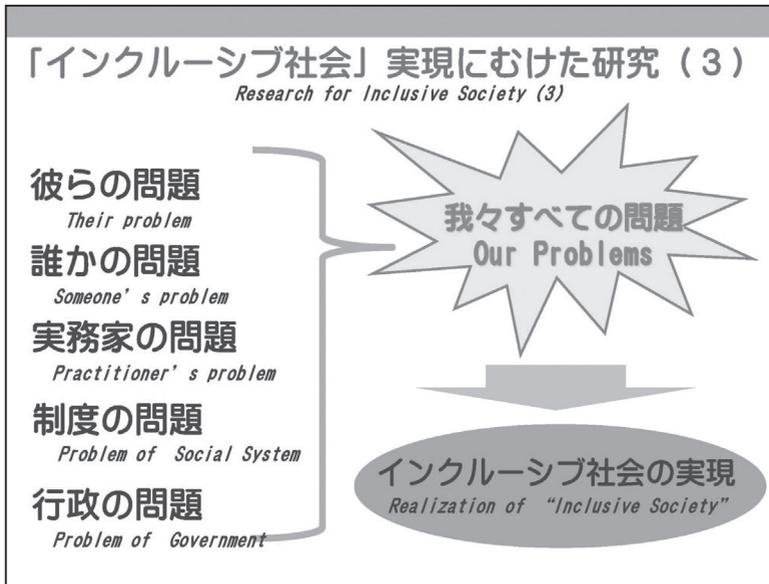


1つ目が予見的支援の創出、これは後ほど土田先生にご紹介いただくものですが、今後起こり得る課題について、あらかじめそれを見通してそれに備えるという研究です。たとえば、我々もこれから年齢が上がっていくと、認知症になる可能性があります、そういう可能性がある状況で、どういう風に予防できるかという意味での予見、あるいは既にある程度高齢になって、車の運転もなかなか難しいという状況にある方が、どういう事故に遭う可能性があるか、それをどういう風に助けられるか、そういう意味での予見に基づいて支援をするための研究をするのがこのテーマです。2つ目の柱は、社会的に孤立した人たち、社会的に排除された方々、社会参加が難しい方々、障害を持っておられる方々、引きこもりの方々などと一緒に問題を考えていく、そういう意

味で伴走的支援という名称を考えました。3つ目の柱は、修復的支援です。犯罪をしてしまった人の中には経済的に困窮してやむにやまれずそういう状況に追い込まれた人もいらっしゃいます。そういう人に社会の中でちゃんと更生していただく、社会の中で健全に働けるような、社会復帰できるような状況を作っていく研究も必要だろうと考えています。あるいは、冤罪の被害に遭った人たちは、特に悪いことをしていないのに突然裁判の場に引き出されて、場合によっては死刑判決を受けたりする、そういう人は単に不幸な人だ、自分に関係ないというのではなくて、そういうことが起きないように、万が一冤罪被害にあった人が社会でどのように助けられていくのか、そういう研究をしていくのが修復的支援です。これらは、おそらく一般的なインクルーシブ社会の研究という範疇をかなり超えているところがあると思いますが、こういう広い範囲の課題に取り組もうと考えて、このプロジェクトを始めた次第です。また、こういう3つの柱の基礎となる研究のために、〈学=実〉連環型研究の方法論についての研究グループも置きました。さらに社会的包摂や支援に関する理論的基礎的な研究をするグループも置きました。この5つのグループについて、後ほどそれぞれのグループリーダーから、我々のプロジェクトが考えるインクルーシブ社会に向けた研究について紹介していただきます。



もうひとつの我々のプロジェクトの柱は〈学=実〉連携ということです。ここに学と実と書いてありますが、リサーチとプラクティス、研究者が大学の中にもって本を読んで議論をするだけではなく、実務家と一緒にあって、色々な臨床の現場におられる方々、弁護士さん、場合によっては刑務所とかそういうところで現場で問題に関わっておられる方々と協力をして、本当に社会的に支援が必要な人たちを支えていくことで、その人達に社会の中で正当な参加者として活動していただく、そういう研究を進めて行こうと考えております。



このインクルーシブ社会の実現に向けた研究の、我々の研究プロジェクトの基本的なスタンスですが、障害者の問題や引きこもりの問題、犯罪者・冤罪被害者の問題等を彼らの問題だとか、自分達とは別の誰かの問題だ、あるいは政府の問題だと考えるのではなくて、我々全ての問題であると考えて、我々全てが協力して、知恵を出し合って、社会的弱者が排除されることのない、孤立することのない、社会の中で生き生きと活動できるような社会を実現していきたい、そういう研究を続けていこうというのが我々のプロジェクトの趣旨です。これから、先ほどご紹介した5つのテーマについて、各プロジェクト、各テーマのリーダーに発表をしていただきます。

それでは最初に、対人支援における〈学＝実〉連環型研究の方法論ということで松田亮三先生に研究のご紹介をいただきます。